



教育活動の目標と方策（特に方策については、5W1Hを踏まえて具体的に記述する。箇条書きでもよい。）

<p>&lt;学校独自の取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇立川市教育力向上推進モデル校としての取組           <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、カリキュラム・マネジメントを意識した授業改善</li> <li>⇒過去2年間のプログラミング教育推進校としての研究成果を生かした、プログラミング教育のさらなる推進 全学年で「情報科」として位置付け実施</li> </ul> </li> <li>◇異年齢交流活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒縦割り班による「ふれあい班活動」⇒年間8回、木曜日朝の時間で実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>◇人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒オフィシャルな場（授業中など）での子供の丁寧な呼称（～さん）</li> <li>⇒自己肯定感醸成のための出番や居場所の設定</li> <li>⇒「ふわふわ言葉」の奨励、ふれあい月間やいじめ解消旬間等の取組による丁寧な実態把握と指導</li> <li>⇒高齢者や障害のある方々との交流活動による、互いを認め合い高め合う共生意識の醸成</li> </ul>	<p>◇立川市民科・ネットワーク型学校経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒保護者・地域ボランティアと委員会活動の協働（花壇の整備、図書館の整備）</li> <li>⇒地元うど農家見学、地域での体験活動</li> <li>⇒関係諸機関との連携による、交通安全教室・自転車免許講習（3年）・多摩シビックプライド（5年）救急救命講習（6年）</li> <li>⇒地域団体による読み聞かせ、幼保交流活動</li> </ul>
--	--	--

<学力・体力の向上に関すること>

- ◇「立川スタンダード20」「立川学級カスタンダード」を活用した、授業づくり・学級経営
- ◇3学級5展開による算数習熟度別授業の実施 ⇒きめ細かな指導
- ◇朝読書（火曜日）、朝学習（金曜日）：算数東京ベーシックドリルによる基礎基本の徹底
- ◇「地域未来塾事業」を活用した、放課後補習・学習教室等の実施
- ◇東京都統一体力テストの活用
  - ⇒体育の授業改善、「一校一取組運動」の実施
- ◇オリンピック・パラリンピック教育の推進
  - ⇒外遊びの励行・マラソン週間・ラジオ体操の日常的な指導による体力づくり
  - ⇒アスリートとの交流授業、日本の伝統文化体験

<特別支援教育の充実に関すること>

- ◇特別支援コーディネーターを軸とした、特別支援校内委員会による組織的な対応 ⇒ SC・巡回相談員・SSW、学校支援員、子どもと家庭の支援員、学習ボランティア等との連携
- ◇特別支援教室上砂川小キラリとの連携
  - ⇒キラリでの指導を共有し、学級での担任の指導に活用
- ◇個別指導計画・学校生活支援シートの活用
  - ⇒丁寧な指導を行っていくための補助資料作成
- ◇市教育相談・就学相談、関係医療機関、子ども家庭支援センター、立川児童相談所等、外部機関との連携
- ◇ユニバーサルデザインの視点を生かした、子供一人一人の教育的ニーズに合った支援の工夫（教室環境、学習指導法・教材の工夫）
- ◇副籍交流活動の推進

<小中連携に関すること>

- ◇小学校（3校の内の1校）・中学校の公開授業及び課題別協議会の実施
  - ⇒9年間を見通した教科指導のための情報交換・共有
- ◇各校の研究発表会への教員全員参加
  - ⇒互いの学び合い
- ◇五中校区スタンダード（学習・生活）、共通SNSルールの活用と徹底
  - ⇒挨拶や言葉遣い等、学校と家庭がより連携していくための基準
- ◇中学校英語科教員による外国語活動授業参加（高学年）・6年五中訪問による授業体験、部活動体験の実施
  - ⇒小学校から中学校へのスムーズな接続（中1プロブレム解消）
- ◇中学生（第2学年）の小学校での職場体験の実施
  - ⇒キャリア教育のより広い機会の提供